

社会学教育における学士力の考察

【到達目標】

- | |
|--|
| 1. 社会における様々な問題に関心を持つとともに、通常は見過ごされている現象を社会的な問題として発見する視点を持つことができる。 |
|--|

【コア・カリキュラムのイメージ】

社会学原論、社会学史、理論社会学、社会学研究方法、演習など

【到達度】

- ① 社会学でこれまで何が問題とされ、どのような視点で研究されてきたかについて理解している。
- ② 「当たり前」とされている現実を改めて疑問視し、見過ごされている現象を問題として認識する姿勢を身に付けている。
- ③ 社会的な問題になり得る事象について、適切なアプローチ方法を検討することができる。

【測定方法】

- ①は、筆記試験、レポートなどにより、確認する。
- ②と③は、具体的なテーマをめぐるディベート、グループディスカッションなどを通じて確認する。また、①から③は、卒業論文、卒論報告会、合評会などを通じて確認する。

【到達目標】

- | |
|--|
| 2. 社会秩序を形成・存続・変容させる日常の営みについて、基礎的な理論を踏まえて理解できる。 |
|--|

【コア・カリキュラムのイメージ】

アイデンティティ論、コミュニケーション論、エスノメソドロジー、ジェンダー論、差別・逸脱の社会学など

【到達度】

- ① 人間の自我やアイデンティティがコミュニケーションを通じて形成される過程を理解している。
- ② 相互行為やコミュニケーションによって秩序が形成・存続・変容する仕組みを理解している。
- ③ 社会秩序の持つ権力性と、秩序からの逸脱の持つ問題性を把握できる。

【測定方法】

- ①から③は、客観式・論述式の筆記試験、レポートなどにより、確認する。

【到達目標】

- | |
|--|
| 3. 現代社会の成り立ちと変動を産業化、都市化、情報化といった歴史的な枠組みから捉え、社会現象をこれらとの関連において理解することができる。 |
|--|

【コア・カリキュラムのイメージ】

産業社会学、都市社会学、社会変動論、現代社会論、家族社会学、宗教社会学、文化社会学、情報社会学論、メディア論など

【到達度】

- ① 社会の構成要素とその機能の関連を構造的に把握する理論的な枠組みを持つことができる。
- ② 現代の社会現象を産業化、都市化、情報化といった歴史的変動の中で理解している。
- ③ 「ミクロ」な現象を「マクロ」な構造変動に繋げる社会学的想像力を身に付けている。

【測定方法】

①から③は、客観式・論述式の筆記試験、レポートなどにより、確認する。

【到達目標】

4. 社会的な問題に対し、現場の視点に基づいた実証的な調査によってデータを収集し、根拠のある分析をすることができる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

社会調査法、社会調査実習、社会統計学、多変量解析、フィールドワークなど

【到達度】

- ① ある社会問題・社会現象について、実証的な方法による調査計画の立て方を身に付けている。
- ② 量的調査、質的調査の基本的な方法論に基づいた調査・分析スキルを身に付けている。
- ③ 社会調査の調査倫理を身につけ、フィールドとの適切な関係を作ることができる。

【測定方法】

- ①と②は、客観式・論述式の筆記試験、演習などにより、基礎的な知識やスキルを確認する。
- ③は、モデルおよび作業仮説に基づいて計画・実施された調査の報告書などにより、確認する。

【到達目標】

5. 社会の在り方についてヴィジョンを持ち、社会的な問題の解決に向けた提案を行うことができる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

環境社会学、福祉社会学、国際社会学、社会運動論、社会政策論など

【到達度】

- ① 社会の現状をもとに、将来の社会を構想することができる。
- ② 構想を踏まえて調査・分析を行い、その結果から問題の解決策を導くことができる。
- ③ 研究の成果を広く社会に発信する方法を身に付けている。

【測定方法】

①から③は、論述式の筆記試験、卒業論文、卒論報告会、合評会などにより、確認する。